

岩手大学の概要



本日の説明内容

1. 岩手大学の概要
2. 事務組織及び業務内容
3. 人材育成・能力開発
4. 勤務条件等
5. 岩手大学が求める職員像



1. 岩手大学の概要

1. 岩手大学の概要 〈沿革〉

1876 盛岡師範学校 設置

1902 盛岡高等農林学校 設置

1921 岩手県立実業補習学校教員養成所 開設

1939 盛岡高等工業学校 設置

1949 岩手大学

4校を母体として新生国立大学として発足
学芸学部 工学部 農学部

1977 人文社会科学部 設置

2004 国立大学法人岩手大学に移行

2016 理工学部 設置

2025 獣医学部 設置



創建当時の盛岡高等農林学校本館



1965年頃の大学全景



現在の学生センター

1. 岩手大学の概要

地域活性化の中核的拠点として教育・研究・社会貢献活動を推進



1. 岩手大学の概要 〈岩手大学ビジョン2030〉

共考と
協創



岩手大学ビジョン2030



岩手大学ビジョン2030

岩手大学は、よりよい未来を創造する「地域の知の府」「知識創造の場」として、地域に頼られ、尊敬され、愛される大学となる。

行動規範

共考と協創（共に考え、協力して創る）

1. 岩手大学の概要 〈岩手大学ビジョン2030〉

教育目標:グローバル化が進展する時代において「多文化共生社会」の実現に貢献し、予測不能な時代の諸課題に対応できる人材を育成する

- 戦略1：教養教育のミッションを再定義
(リテラシー、社会人基礎力、専門教育との有機的接続)
- 戦略2：ワンキャンパスを活かした教育の実施
(分野横断・文理融合教育)
- 戦略3：学生が主体的に学ぶカリキュラムの構築
- 戦略4：社会とのかかわりの中で学ぶ実践的教育を含む多様な学習環境の整備
- 戦略5：グローバル化に対応した能力を身に付けた高度専門職業人の育成
- 戦略6：学生の学びをサポートする体制の整備
(キャリアコーディネートなど)

社会貢献目標:地域社会との対話により、時代とともに変わる地域への理解を深め、人材育成と研究成果の活用を通じて地域社会や地域企業が抱える課題の解決に貢献する

- 戦略1：地域社会との対話の場の構築
(いわて高等教育地域連携プラットフォームの活用)
- 戦略2：地方国立大学の責務として、地域の未来を担う人材の育成
(レジリエント人材の育成・輩出)
- 戦略3：地域ニーズを踏まえた質の高い教育機会の提供
(リカレント教育)
- 戦略4：研究成果を活用し、地域社会や地域企業が抱える課題解決に貢献
(研究成果の社会実装)

研究目標:教員の自由で優れた研究成果を創出するための制度設計や施設整備を実施し、基礎研究を含めた大学全体としての研究力を向上する

- 戦略1：長期的な視野で真理の探究を行うことができる環境の構築
(教員の自由な発想を重視)
- 戦略2：地域的特徴を生かした岩手大学ならではの研究の実施
(岩手の歴史文化や東北地域の資源の活用)
- 戦略3：大型外部資金等を活用した先導的研究の推進
- 戦略4：研究意欲のある教員のサポート体制の充実
- 戦略5：若手研究者の研究力向上のための体制の構築
(柔軟な発想・思考の醸成)

その他目標:上記目標の達成に向けた経営を実現する

- 戦略1：経営及び教学に関する責任を明確にしたガバナンス体制の構築
- 戦略2：政策や社会状況に影響されない自立した財務体質の構築
- 戦略3：ステークホルダー（学生や社会など）との対話を大学経営に反映
- 戦略4：IR（Institutional Research）の活用とDX（Digital Transformation）の積極的推進

1. 岩手大学の概要 〈組織〉

学部

- ・人文社会科学部
- ・教育学部
- ・獣医学部
- ・理工学部
- ・農学部

大学院

- ・総合科学研究科(地域創生、総合文化学、理工学、農学 専攻)
- ・教育学研究科(教職大学院)
- ・理工学研究科
- ・獣医学研究科
- ・連合農学研究科

教育研究施設

- ・地域防災研究センター
- ・平泉文化研究センター
- ・三陸水産研究センター
- ・ものづくり技術研究センター
- ・次世代アグリイノベーション研究センター
- ・分子接合技術研究センター

教育研究基盤施設

- ・図書館
- ・保健管理センター
- ・情報基盤センター
- ・国際教育センター

教育研究支援施設

- ・教学マネジメントセンター
- ・地域協創教育センター
- ・教員養成支援センター
- ・研究支援・产学連携センター
- ・RI総合実験センター

特定事業推進室

- ・地域社会教育推進室
- ・環境マネジメント推進室
- ・評価室
- ・ダイバーシティ推進室

1. 岩手大学の概要 〈上田キャンパス〉

☆学生数(R7.5.1現在)

学部	4,619
大学院	876

☆教職員数(R7.5.1現在)

役員	9
教員	356
附属学校教員	84
事務職員	181
技術系職員等	71

新幹線乗車時間 (盛岡駅発)

- ・新青森 66分
- ・八戸 27分
- ・秋田 93分
- ・仙台 39分



1. 岩手大学の概要 〈釜石キャンパス〉

岩手大学 釜石キャンパス

農学部食糧生産環境学科

水産システム学コース

三陸を見つめながら、グローバルな視点で
水産・海洋問題を解決できる人材を育成します！

なぜ？水産コース

今、日本のみならず、世界でも水産・海洋問題に積極的に
関わり解決できる人材が不足しています。岩手大学では、
その問題を解決するためこのたび水産システムコースを新設しました。
これからグローバルな視点で水産・海洋問題を解決できる人材を
育成していきます。

海洋資源管理・利用、増養殖、水産加工などの

基礎的な分野から、流通、政策といった水産業に関わる
社会科学的分野まで広く学ぶことができます。

何が学べるの？

盛岡キャンパス



[1~3年生前期]
1年次では水産の基礎知識を学びます。
2~3年次前期では複数の分野から生物の特徴を把握し、水産生物について学びます。



3年生の後期
から釜石へ移動



[3年生後期~4年生]
学生数 約30名
これまで学んだ知識を活かし、各教員指導のもと、分野毎の研究をスタートさせます。

2016年度から新コースが誕生

【総合教育研究等(水産系)】

全国初となる地方公共団体からの補助金を活用しての新築の教育施設の整備
(岩手県及び釜石市の補助金と文部科学省の施設整備費補助金によって整備)

総合教育研究棟(水産系)
(R1.7~)

三陸水産研究センター
(H25.5~)



整備された総合教育研究棟（水産系）



総合教育研究棟にある水産実験室

1. 岩手大学の概要 〈地域協創教育センター〉



岩手大学地域協創教育センターでは、地域との協創教育（正課教育と、地域社会を実践の場とした正課外活動との連携・接続を図る教育）を実践することにより、高い専門性と実践力を併せ持ち、社会の様々な視点から直面する課題を理解し、解決に向けて自律的に判断・行動ができる能力を持った「レジリエントな人材」を育成します。

1 地域協創教育に関するワンストップ窓口

- ・教育事業における地域とのワンストップ窓口
- ・学外との連携のコーディネート
- ・プログラムの地域適用性向上に向けた取組の推進（地域関係者向けの成果公開やプログラム修了者への表彰制度）

2 全学対象共修プログラム イーハトーヴ協創コース

- ・正課教育及び地域社会を実践の場とした正課外活動をシームレスに実施させた、アントレプレナー人材育成及びソーシャルイノベーション人材育成に資する全学対象プログラムの開発と実践。

3 地域協創の場 「イーハトーヴ協創ラボ」

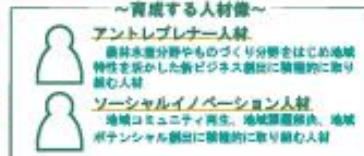
- ・企業や自治体と、学生・教職員との恒常的な対話の場の創出。
- ・学内コワーキングスペース「イーハトーヴ協創ラボ」の開設・運営
- ・実践活動（フィールドワーク・インターンシップ等）の多面的支援促進

4 地域での実践活動や 学生のキャリア形成サポート

- ・地域社会を実践の場とした各種取組の集約と最適化、地域関係者も交えた体系化
- ・地域協創教育に資するキャリア形成支援（キャリア開拓科目の開発・実施）

「イーハトーヴ協創コース」とは？

本学の卒業生である宮沢賢治の想い「世界がぜんたい幸福にならないうちは人の幸福はあり得ない」（well-being）を受け継ぎ、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指し、着手で生きる、教員と繋のある地域の多様な方々との協創活動を通じ、心の豊かさとイノベーションアンドオーバーランドを併せ持ち、高い専門性と実践力を兼ね備えたレジリエントな人材を育成します。



1

イーハトーヴ 協創ラボとは？



特徴

- ・学生及び地域の方も利用可能なコワーキングスペース
- ・ポストコロナを越えたオンラインも含めたワークショップ、公開講座、アクティブラーニング、地域開放型授業など、多様な取組が可能なセミナー・コラボレーション・シンポジウムスペース

設置場所

中央学生食堂 2階

将来的に学内セントラルゾーンの大型リノベーションに合わせた当該スペースの本校・拡充を目指します。



取組

- ・団体などを利用した企業関係者によるキャリアトークカフェ
- ・コワーキングスペースにおける学生・社会人との多様な交流イベント
- ・企業と学生との協創事業のマッチング及びハンズオン型インターンシップ
- ・企業やその支援による仲間と出会い、交流が可能なスタートアップカフェ
- ・岩手県や盛岡市などが開設・支援している企業家等支援拠点との連携イベント
- ・大学角ベンチャー企業等との連携による、起業家マインド育成事業やキャリア形成支援事業

イーハトーヴ基金「地域協創教育推進基金」のご案内

学生の地域での実践活動に対する支援や、地域課題解決プロジェクトなど、地域の多様な方々との協創により進める取組に活用するため、岩手大学イーハトーヴ基金の特定基金として「地域協創教育推進基金」を開設しております。皆さまのご理解と助力を心よりお願い申し上げます。

（概述）

- ①地域課題解決プログラムの事業実施支援
- ②地域における学生の実践活動に対する支援
- ③地域協創教育に関するビジネスコンテストの観賞
- ④その他、地域協創教育センターが主催する取組（イーハトーヴ協創コースやイーハトーヴ協創ラボ等）に開催する事業等の実施支援

（募集単位）

- 個人：一口 3千円～ 法人：一口 5万円
※岩手大学への寄付金は、所得税、個人住民税、法人税の税制上の優遇措置が受けられます。

※イーハトーヴ協創ラボの設置場所である中央学生食堂全体の本格改修を実施した「キャンドルス登録基金」につきましては併せてご検討いただけますと幸いです。



（お寄り込み方法等）

- お申込み、お贈り込み（寄付の方法）につきましては、
岩手大学イーハトーヴ基金内のページ
(<https://www.iwate-u.ac.jp/ihatovkkin/index.html>) をご参照ください

岩手大学地域協創教育センター

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目 18-34

Mail: rceec@iwate-u.ac.jp

TEL 019-621-6633

この広告は、岩手大学内カンパニー（学生団体による
仮想企業）+designの協力により、作成しています。

2

1. 岩手大学の概要 〈岩手大学が目指す大学像〉

1

地域に根差して、世界に羽ばたく存在感のある大学
～Glocal(Global+Local)な視点を持った大学～

2

様々な分野で地域を先導し、地域を変革していく大学

3

岩手大学のIdentityを確立し、卒業生が誇れる大学

2. 事務組織及び業務内容

1. 事務組織及び業務内容 〈上田キャンパス〉

令和7年4月～

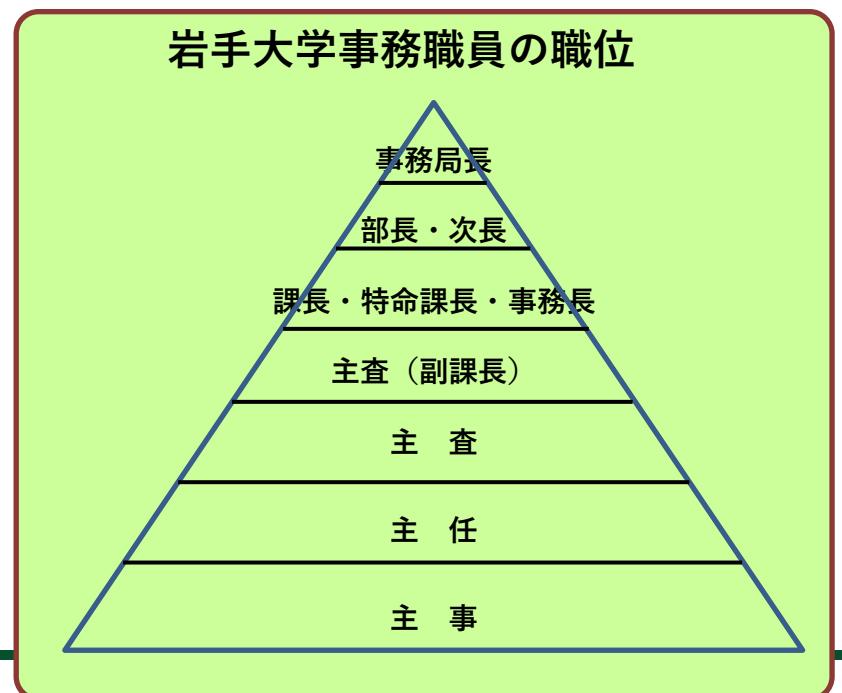
部局	課・室	グループ	主な業務
学務部	学務課	教養教育・教務企画グループ	教養教育、教育推進機構、入学期前教育
		教務情報グループ	学業成績、学務情報、証明書
		専門教育グループ	学部教育、大学院教育、教員養成支援センター各種会議、免許更新講習
	地域協創教育課	地域協創教育グループ	地域協創教育の企画・実施
		キャリア教育グループ	キャリア教育、キャリア形成支援
	学生支援課	総務グループ	学務部事務の総括・連絡調整、後援会
		奨学グループ	授業料免除、奨学金、学生特別支援室
		課外活動グループ	課外活動・サークル、学生の事件・事故
		寮務グループ	学生寮
	入試課	入試グループ	入試関係、入学手続き、オープンキャンパス
	国際課	国際連携・教育グループ	国際交流、外国人留学生、日本人学生派遣
研究・地域連携部	研究・地域連携課	総括・企画グループ	遺伝子組換実験、研究用微生物取扱、動物実験、RI総合実験センター
		地域連携推進グループ	地域防災研究センター、地域社会教育推進室
	研究支援課	産学連携・知財グループ	共同研究、受託研究、受託事業、奨学寄附金、発明等知的財産、研究支援・産学連携センター
		科研費グループ	科学研究費助成事業、各種補助金
	釜石キャンパス事務室	釜石キャンパスグループ	釜石キャンパス、三陸水産研究センター

部局	課・室	グループ	主な業務
法人運営部	総務広報課	総務グループ	全学行事、式典、全学会議、秘書、文書管理、情報公開、名義使用、危機管理
		広報グループ	広報、マスコミ取材、ホームページ、同窓会
	人事課	人事グループ	採用、退職、研修、評価（教員・人事）
		職員グループ	勤務時間、休暇、兼業、安全衛生管理、保育園
		給与・共済グループ	給与関係（支給・税金・マイナンバー）、共済組合（組合証・年金）、社会保険
	学術情報課	総務グループ	図書館総務（施設管理・人事管理等）、ミュージアム関連
		図書館資料管理グループ	資料の受入・登録、リポジトリ
		図書館利用サービスグループ	資料の閲覧・貸出、文献複写・相互貸借、館内案内、リファレンス
		情報企画グループ	情報化、情報セキュリティ監査
		情報支援グループ	シンクライアント、サイボウズガルーン
		情報基盤運用グループ	教育・研究システムの利用に関するこ
		財務課	財務、事務局公用車、宿泊施設
	経理課	予算・決算グループ	予算・決算、債権・債務
		経理グループ	授業料納付、旅費、謝金
	施設課	調達グループ	支払関係
		施設整備グループ	建築（床、壁、天井、建具）・土木（道路等）の新設・保守・点検、不動産管理業務
		施設環境保全グループ	電気設備・機械設備の新設・保守・点検、防火・防災管理業務
基金室		基金グループ	イーハトーヴ基金
人文社会科学部	人文社会科学部事務部	学部運営グループ	人文社会科学部事務全般
教育学部	教育学部事務部	学部運営グループ	教育学部事務全般
	附属学校事務室	附属学校グループ	幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校関係全般
理工学部	理工学部事務部	学部運営グループ	理工学部事務全般
農学部	農学系事務部	学部運営グループ	農学部・獣医学部事務全般
		連合大学院グループ	連合農学研究科関係全般
		寒冷フィールドセンターグループ	農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター関係全般
監査室		監査グループ	内部監査、監事監査補助
戦略企画・評価分析室		戦略企画グループ	将来構想、部局の設置・改廃
		評価分析グループ	認証評価、法人評価、大学ポートレート

3. 人材育成・能力開発

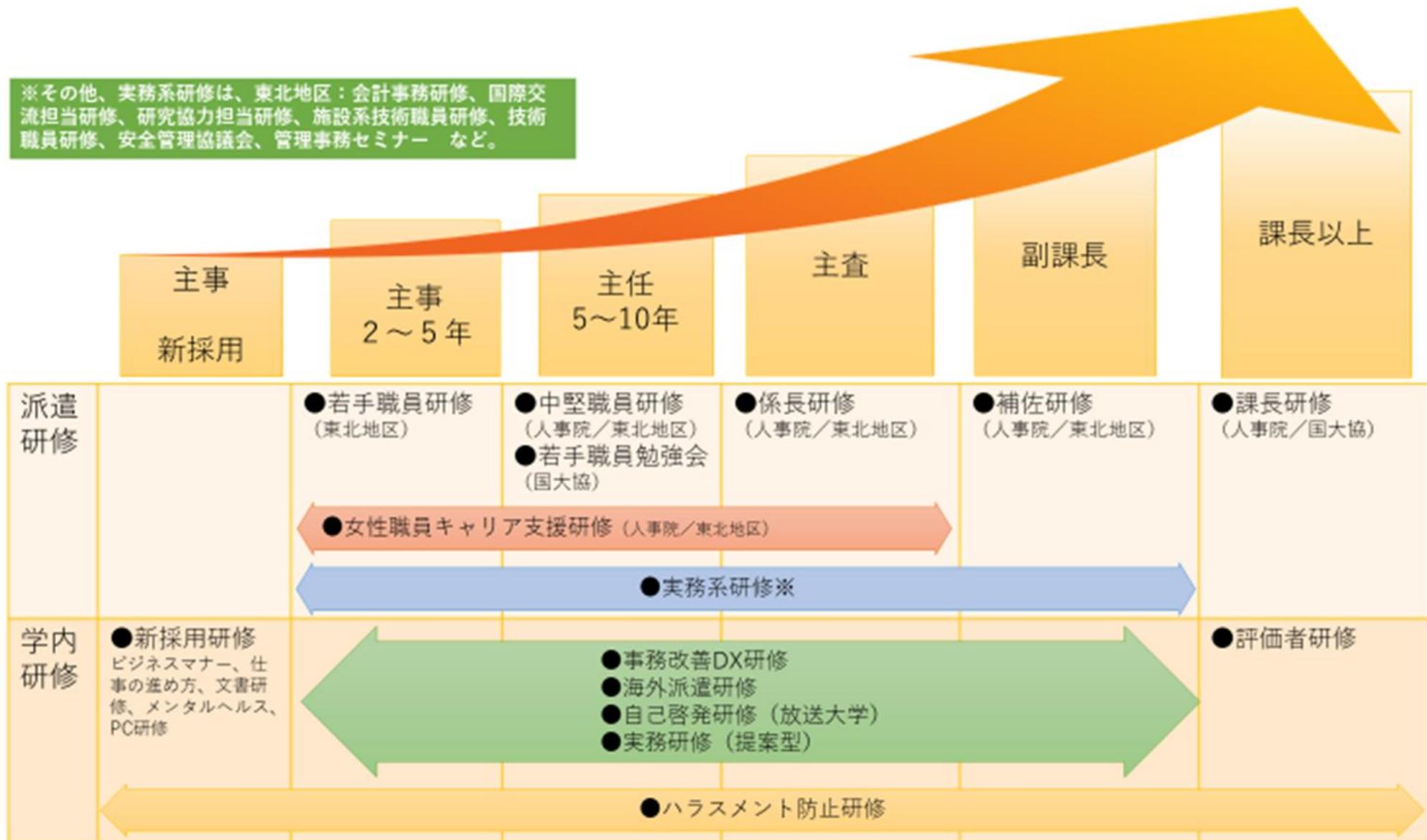
1. 人材育成・能力開発

- ☆ 人事異動 幅広い実務経験、事務全般に精通する能力を養う。
おおむね2~3年ごとに原則大学内での異動
- ☆ 人事交流(事務系) 復帰を前提とした他機関への出向
主な人事交流先:
 - (県内) 国立岩手山青少年交流の家、一関工業高等専門学校、国立天文台水沢VLBI観測所 等
 - (県外) 文部科学省、日本学術振興会、大学改革支援・学位授与機構、国立大学協会 等
- ☆ 研修 新採用職員研修、階層別研修、実務研修、自己啓発研修、語学研修、
パソコン研修、文部科学省行政実務研修 等



3. 人材育成・能力開発 〈階層別研修のイメージ〉

※その他、実務系研修は、東北地区：会計事務研修、国際交流担当研修、研究協力担当研修、施設系技術職員研修、技術職員研修、安全管理協議会、管理事務セミナーなど。



4. 勤務条件等

4. 勤務条件等

☆初任給(大学新卒者の場合)

月額220,000円(一般職俸給表(一)1級25号俸)

本人の学歴や職歴により異なる。

☆昇給・昇格

・昇給は、毎年1月1日に前年の勤務評価に基づき行われる。

☆諸手当

・通勤手当、住居手当、扶養手当(扶養親族がある場合)

・期末・勤勉手当(いわゆるボーナス。年2回(6月・12月)支給)

・他、超過勤務手当、寒冷地手当、入試手当 等

☆勤務時間

1日7時間45分、8時30分から17時15分まで(休憩時間12時～13時)※異なる場合もある。

フレックスタイム制、テレワークも可能

☆休日 土曜日、日曜日、祝日及び年末年始(12/29～1/3)

☆休暇 年次休暇、特別休暇(リフレッシュ休暇、結婚休暇、忌引休暇、

看護休暇、介護休暇、産前産後休暇等)、病気休暇

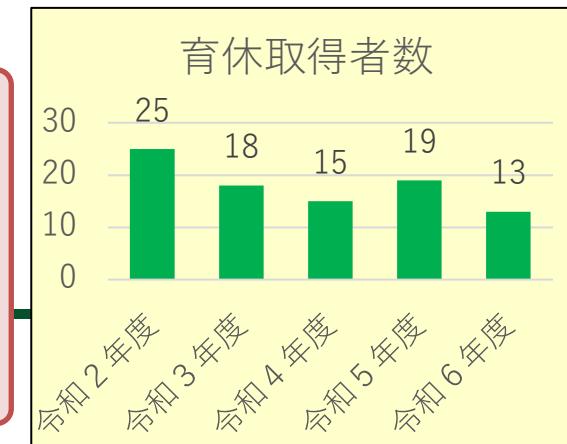
4. 勤務条件等

- ☆育児休業 子を養育する場合に、その子が3歳に達する日以後の最初の3月31日までの間、性別を問わず取得できる。(休業中は無給)
- ☆介護休業 配偶者、子、父母等が負傷、疾病等により、2週間以上にわたり介護を必要とする場合に取得できる。(休業中は無給)
- ☆配偶者転勤等同伴休業 配偶者の海外転勤等に伴い配偶者に同伴する職員(2年以上在職者及び復帰後5年以上在職予定者)の継続的な勤務を促進するため3年を超えない範囲で取得できる。(休業中は無給)
- ☆社会保険 共済組合(医療)、厚生年金、介護保険、労災保険、雇用保険
- ☆福利厚生
- ・健康診断 労働安全衛生法に基づき健康診断を実施
 - ・レクリエーション ソフトボール、ボウリングなどを実施
 - ・学内施設 体育館、プールなどの体育施設や図書館を利用できる。
 - ・職員宿舎



► 岩手大学・岩手銀行保育所
「がんちゃんすくすく保育園」開園 2018.3月

国立大学と地方銀行による
内閣府企業主導型保育所設置は**全国初**



4. 勤務条件等



ボウリング（秋～冬）



ソフトボール（夏）



さんさ踊り（8月初旬）



職員住宅ノースヒルズ北山 H26.3新築
家賃は普通のアパート並。住居手当支給。
敷金・礼金・仲介手数料なし。



さんさ踊り（8月初旬）

5. 岩手大学が求める職員像

5. 岩手大学が求める職員像

雨にも負けず、「岩手大学のチカラ」が最大限発揮されるために

—岩手大学が求める職員像—

本学の卒業生でもある、詩人 宮沢賢治の有名な詩、「雨ニモマケズ」。

この詩で語られている人物のような、謙虚で真摯な心を持ちながらも、粘り強く懐の深い大学職員に私たちにはなりたい。そんな思いを込めて、岩手大学職員の「チームカラー」と「行動指針」をそれぞれ定めました。

岩手大学職員の「チームカラー」と「行動指針」を

岩手大学職員のチームカラー

私たちは、より良い「ひと」、「もの」、「地域」づくりに「岩手大学のチカラ」が最大限発揮されるために、多様な「舞台」を創造するチームです。

その実現のために、チームとして次のことを大切にします。

ホスピタリティ (Hospitality)

岩手の人情豊かな環境を背景とした「ホスピタリティ」を大切にします。

まずは相手の気持ちを考えた行動を意識し、笑顔を絶やさず、真摯に仕事に取り組み、地域や世界から愛される大学づくりに貢献するチームであり続けます。

タフネス(Toughness)

岩手の厳しくも壮大な自然の中で生きる人々が持つ「タフさ」を大切にします。学内外の様々な諸課題の解決に向けて、チームワークを駆使して粘り強くしなやかに、考え方抜き、努力し、積極的にアクションを起こすチームであり続けます。

ハピネス(Happiness)

宮沢賢治の心象世界「イーハトーブ」（理想郷）からイメージする「幸福感」を大切にします。どんなときもお互いを思いやる心をもって行動し、そこから得られる様々な達成感や幸福感を自己実現にもつなげていく…そのような「幸福の循環（ハピネスサイクル）」の存在するチームであり続けます。

岩手大学職員の行動指針

私たちは、岩手大学の使命・理念の達成に向けて、主体的に「考動」し続けるために、次のことを行動指針とします。

つかむ

世の中の動きや時代の変化、地域や社会のニーズ、岩手大学の強み・特色など、さまざまなことに対して広く敏感にアンテナを張り、必要な情報をキャッチします。

世の中の動きや時代の変化、科学技術の進歩などにより、大学に対する社会や地域のニーズも日々変化しています。私たちは、めまぐるしく変動する社会の中で、学生や教員、地域や社会に最大限貢献し続けるために、まずは一人一人が岩手大学の強み・特色、岩手という敏感性をしっかりと理解します。そして、地域や社会に広くアンテナを張り、必要な情報を収集しキャッチします。

活かす

コンパクトな岩手大学ならではの特長と、個々がもつ多様な特性を活かし、スピード感と横断的な思考をもって、チームとしての最適解を導きます。

総合大学でありながら、ワシシャンペスでコンパクトな岩手大学には、「機動力」や「チーム力」を大きく発揮することのできる組織的な特長が備わっています。

私たちは、それらの特長を存分に活かして、スピード感を意識しながら、横断的思考を持った特長と積極的に活用します。自身の役割を認識しつつ、それぞれが持つ多様な個性、知識、経験などを存分に活かすことで、チームとしてより良い業務成果を生み出します。

わくわくする

多くの価値観とふれ合い、変化を前向きにとらえ、そこから感じる「わくわくの気持ち」を大切にしながら、輝く未来に向けてチャレンジします。

めまぐるしく変動する社会の中で日々成長していくためには、変化を恐れず、むしろその変化をチャンスと捉え、前へ踏み出す力が求められます。私たちは、自身を取り巻く多様な人、価値観、環境など、さまざまことに興味・関心・好奇心を持ち、そこで感じた「驚き」「喜び」「楽しみ」など、わくわくする気持ちを大切にします。その気持ちを持って、変化を前向きにとらえ、成長を楽しみ、その成長を共有・還元しながらさまざまなことにチャレンジします。

応える

教育機関で働く意識を常に持ち、真摯で誠実な態度と柔軟な発想で、学内外からの信頼・期待に応えるとともに、学生の模範として、学生の社会的成長を後押しします。

教育機関である大学には、常にステークホルダーの目が注がれています。大学職員は自ら働く行動をとることが必須です。私たちは、真摯で誠実な態度と、前例にとらわれない柔軟な発想で、学生や教員、地域や世界など誰からも信頼され、期待される職員を目指します。また、大学職員は学生にとって最も身近な社会人であるという自覚を持ち、学生の模範となって行動することとも、学生の社会的な成長を後押しします。

高める

岩手大学が果たすべき社会的使命を意識し、「岩手大学のチカラ」をさらに高めるために、自らを高め、互いを高め合いながら、大学や地域社会の持続的成長のためのエンジンとなります。

「知識創造社会」である現代社会において、岩手大学をはじめとする高等教育機関が果たすべき役割を日々高めています。私たちは、岩手大学の立ち位置や、そうした役割を常に見直しながら、長期的視点をもって業務を遂行することとともに、必要に応じた改善を図り、岩手大学の可能性を高めています。また、そこで働く自分の自身の可能性を拓けるため、生徒に譲って学び続けるとともに、職員同士が互いに磨き合ないながらその成長を還元し続けることで、大学や地域社会の持続的な成長のために貢献します。



『岩手の“大地”と“ひと”と共に』歩んでいる
岩手大学で一緒に働いてみませんか。

